

# 市長「関係を断つ」と明言

## 「自ら恥じ、反省しなければならない」

旧統一協会（世界平和家庭統一連合）と政治家の癒着について、赤星ゆかり市議と吉田おさむ市議が9月定例会で重要案件として取り上げました。藤井市長は「一切の関係を断つ」と明言。市は「イベントへの後援はしない、過去分も取り消す」と明快な態度を表明しました。

吉田市議  
一般質問

### 市長の言動が、統一協会の正当性に「お墨つき」を与えた認識はあるか

藤井裕久富山市長は、2021年4月の市長選挙で統一協会から支援を受けていたこと、当選直後の5月30日、富山県平和大使協議会主催の「第58回オープнкаレッジ」に参加し「平和大使」に任命されていたこと、同協議会に「藤井裕久後援会」を立ち上げてもらっていたこと、また、現市議会副議長など、深い関わりを持つ自民党市議も相当数いることがわかりました。

救済とともに二度とこのような被害者をつくらないことは政治の責任、すべての政党が超党派で取り組むべきと訴えました。昨年の市長選挙における支援について藤井市長は、知り合いの誰かに紹介された。その時点で「大きな社会問題を起こしている団体」との認識はなかったと答弁。吉田市議は、霊感商法、高額献金による日本人の被害認定額は、被害弁護団によると約35年間で1237億円。実態はこの10、20倍で1兆円を超える規模だと指摘。政治家の関与が「統一協会の活動の正当性に『お墨つき』を与え、被害者を増やしたとの自覚はあるか」との問いに、市長は、「（統一協会に）政治的意図があったとすれば、自ら恥じなければならぬ。反省しなければならぬ」と述べ、誠実な態度を表明しました。



吉田議員の質問動画

## 過去分も取り消し

### 「関係をもたない意志を強く示す」

### 市・市教委の後援

赤星市議  
一般質問



赤星ゆかり議員 (9/15 本会議)

赤星市議は、市と市教委が後援名義使用を承認した統一協会系イベントの申請書および添付書類一式などの資料を、公文書公開請求で入手し質問。「市長の出前トーク」2件について、21年は「富山大学UPF F窓会」から、22年は「富山県平和大使協議会」からの申込みを受けて行っていました。

また「富山県平和大使協議会」主催の20年4月の「家庭教育講演会」や21年の「オープнкаレッジ」について、市教委への後援申請書に添付された「富山県平和大使協議会規約」や案内チラシには統一協会につながるキーワードがたくさんあるのに、何の疑問もなく後援を承認していました。



赤星議員の質問動画

## 市議会として、いっさいの関係を断つ決議

### 全会一致で議決

富山市議会が「世界平和統一家庭連合（旧統一協会）及び関係団体と一切の関係を絶つ決議」について、9月28日の議会最終日に全会一致で議決しました。地方議会として関係を断

つ決議は全国的にも稀で画期的なことです。日本共産党は、7月と8月に藤井市長と市教育委員会に関係を断つよう申し入れ、9月議会議長と副議長に、旧統一協会と議員の関わりを明らかにし、今後、一切の関

係を断つよう申し入れていました。世論が市長と市政を動かす、反社会的なカルト教団と手を切れの一点で他党派の議員とも連携してきた日本共産党派の行動が、議会も動かし

### 市議13人が接点

自民2会派は会見で、13人が旧統一協会と関わりを持っていたことを明らかにしました。そのうち3人は2021年の市議選で支援を受けていました。

◆旧「統一協会」の表記について  
メディア等では「旧統一協会」と表記していますが、日本共産党は、旧名称が「世界基督教心霊統一協会」であることから、「統一協会」と表記することにしています。

## 不採択

### 市民からの陳情

市民から「催事後援者として富山市を使用する手続きの見直しを求める陳情」が提出され、総務文教委員会が赤星委員が採択を求めました。15人の富山市議会自民党派は「当局は今は見直すと言っている。願意は達成されているから不採択」と反対。もう一つの8人の自民党派は「素直に受け止め採択すべき」と賛成。挙手採決で4対4の同数になり、進行していた副委員長が反対して5対4で「不採択」に。議会最終日の本会議では自民の議員と日本共産党の吉田議員が賛成討論し16人が賛成しましたが、富山自民・公明など19人が反対し、不採択となりました。

### 共産党派 市長・議長らに再三申し入れ

日本共産党は市長と市教委に対し、7月22日・8月22日と二度の申し入れをし、統一協会との関係や行事を後援した経緯を明らかにし、今後の一切の関わりを断つことを求めました。市側は当初、統一協会系団体のイベントへの後援について、①申請書類が基準を満たしていたから承認した、②申請団体が旧統一協会系との認識がなかった、③今後は団体の活動等について報道等を注視しながら要綱に従いかつ慎重に対応する、と回答。また9月5日には鋪田博紀議長に対し、①各党派・議員が統一協会との「関わり」を自己調査し調査結果を市民に公表する、②今後、統一協会及びその関連団体とどう関わるのか明示することを申し入れ。さらに9月20日には、特に深い関わりが報道されている成田光雄副議長に対し、①率先して関わりを調査し結果を公表すること、②今後、関係を断つ」と明確に表明することを申し入れました。



9月  
定例会

PFIで整備の(仮称)水橋・義務教育学校

6月  
定例会

学校給食費

# えっ? 給食室つukらないの? 呉羽山「つり橋」に25億円!

## 補正予算に赤星市議が反対討論



富山市立小学校のある日の給食  
「ししやもの唐揚げ」は子どもたちに人気だそうです

### 令和4年度は値上げストップ!

市は食料費などの値上がりで「必要な栄養価の摂取基準を満たすことが難しい」として、4月から小中学校の給食費を年間5千円、総額で約1億4700万円の値上げを行いました。4月末に文科省が「国からのコロナの交付金を充てても良い」との通知を出したことを受け、年度後半で保護者から値上げ分を徴収しないことを発表し、実質値上げ回避が実現しました。日本共産党は、赤星市議が3月議会でも一般質問で「あらゆる物価上昇の一方、実質賃金は低下し市民生活が圧迫されている。必要分を市が補助すれば値上げ中止できる」と、保護者の負担増に反対していました。

9月補正予算案に赤星議員が反対討論を行いました。水橋地区・義務教育学校(仮称)では、給食室をつくらない計画。呉羽山「つり橋」では、約1億円で土地を買戻す議案(総事業費約25億円)などに、疑念を表明しました。

### 水橋・統合校

市は水橋地区の5つの小学校と2つの中学校を統合して令和8年度開校予定の(仮称)水橋地区義務教育学校の整備事業費として令和5年度から22年度までの18年間で約118億円の予算を提案。ところが給食室のない計画で、豊田の北学校給食センターから給食を運ぶと総務文教委員会で赤星市議の質問に答えました。



義務教育学校(仮称)建設予定地の旧県立水橋高校敷地

赤星市議は反対討論し、学校給食は単なる食事ではなく学校給食法に位置づけられた教育の一環だと強調。従来富山市は小学校は自校調理方式を基本としてきたのをいつ変えたのかと疑問を投げかけました。同じPFIで整備した統合校の芝園小学校と芝園中学校は一体的な校舎の中の給食室で作っていたの給食です。顔の見えるできたて給食を日本共産党はこの数年で市立の小学校15校、中学校5校の給食を視察して来ましたが、市直営の自校調理の給食室で作る様子が見え、調理員さんが教室に行くことで子どもたちの食べ具合もわかり、子どもたちから「おいしかったよ」の声かけが嬉しい、お互いの顔の見える交流があり、まさに感動の「食育」がありました。



工事中の呉羽山「つり橋」

### 呉羽山「つり橋」

市は土地開発公社が令和2年1月に約3億円で買収した(7438坪)の富山観光ホテル跡地を3回に分けて買い戻す3回約1億円を計上。呉羽山「つり橋」を準備するとしています。呉羽山「つり橋」は、森前市長の退任の「花道を飾りたかった」として時間のなか「あわて仕事」で官製談合を引き起こし、この土地買収も一連の流れの中で、無関係ではありません。平成31年3月議会でも当時

給食室があれば、地域でとれた「ホテルイカ」や野菜なども学校で調理してすぐ出せる、災害時に学校に地域住民の避難所が開設された場合も、給食室を使っても炊き出しができます。水橋地区で唯一の学校となるのに給食室がなければ、災害やアクシデントなどで給食が届かないということになっては困ります。意見を出しましょう! 赤星市議は、子どものために最善の学校をつくるべきと呼びかけ、子どもたち、保護者、地域住民、教職員などの意見をよく聴いて再考をと求めました。



とやま古洞の森ふれあいセンター

### 池多・三熊 古洞の森

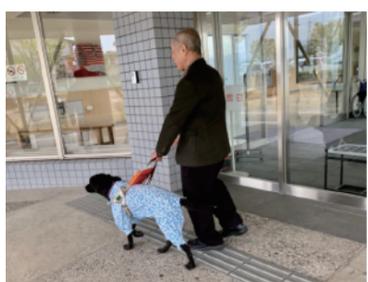
#### 古洞自然活用村

### 吉田市議が主張 なんとしても存続を

富山市は3月定例会で、「古洞の森自然活用村」(富山市三熊)は、第二次公共施設マネジメントアクションプランにより、指定期間終了の令和5年3月末をもって施設を廃止し、民間に譲渡または貸与すると発表し、6月補正予算に、民間活力を導入したリニューアルを検討する「検討業務」の委託料800万円を計上しました。吉田市議は6月20日の一般質問で、市は「古洞の森」にお金を出さないことはハッキリしており「きわめて残念」と述べ、地元のみなさんは「天文台は廃止。池多小学校の統廃合問題もあり、市は池多には暗い話ばかり持つてくる」と嘆きの声が聞かれると伝えました。吉田市議は、地元では廃止後すみやかな事業継続の期待は強く、市の最大限の努力を求めました。金山農林水産部長は、「現在二つの事業者から問い合わせがある」と答弁。また、池多の拠点施設のひとつであり、市内外の人々が自然に親しみ憩う場として、民間のノウハウで魅力ある施設になるよう、市としても努力したいと述べました。

の森市長が「ホテルの跡地を現在所有しているらつしやる企業から(中略)連絡橋を建設してほしいという要望」があったと答弁していましたが、ところが実際に要望書を提出していたのは別の企業だったことが情報公開で判明。結局、跡地所有会社も要望した会社も、つり橋工事を受注した建設会社の同族企業であることがわかりました。赤星市議が反対討論し、税金3億円もかけて土地を買い取り「周辺広場」を4.5億円もかけて整備する(総額では25億円にも)妥当性には大いに疑問、市民から「市政の膿を出し切って欲しい!」と切実な声が寄せられていると訴えました。

### 盲導犬の医療費に助成を



盲導犬は「一心同体」 盲導犬は県内で6頭、うち5頭が富山市です。吉田市議は「盲導犬がいるから、一人で外出・社会参加ができる。メリハリのある生活ができる。生きる上で欠かれない「心同体」との声を紹介し、盲導犬の育成事業の拡充を求めました。また、犬のエサ代と医療費の実態(昨年1年間のエサ代5万7千円、医療費は5万5千円、合わせて11万2千円)を示し、障害をもった所得の低い利用者にとって重い負担になっていると指摘。姫路市など全国の中核市で定額の助成をしているところもあり、市として何らかの助成の検討を求めました。田中福祉保健部長は、「他都市や県の動向を見ながら考えていく」と述べるにとどまりました。